

エダマメの長期出荷に向けた作付けモデル

本庄 求・篠田光江・佐藤菜々子*・武田 悟・田口多喜子・田村 晃
(*秋田県鹿角地域振興局)

1. ねらい

エダマメ産地の育成・拡大のためには、早生から晩生まで良食味の優良品種を導入し、長期にわたり継続出荷できる栽培体系を確立することが重要である。そのためには、優良品種を選定するとともに、播種期と収穫期、生育、収量、食味、糖・アミノ酸含量等の関係を整理する必要がある。しかし、本県では、これらについて、各産地で個別に実施されているものの、系統立てて試験した例がない。そこで、現在市販されている品種をできるだけ網羅し、それぞれの作型において、有望品種を選定するとともに、収量・食味等が良く安定して栽培できる期間を明らかにする。そして、これらのデータを基に、本県エダマメの長期継続出荷に向けた作付けモデルを作成する。

2. 試験方法

試験は秋田県農林水産技術センター農業試験場内で2004年～2008年に実施した。調査内容は、生育量、収量、食味官能、糖、アミノ酸含量とした。

(1) 中晩生品種の選定(2004年)

19品種、6月7日播種の1作期で試験を行った。

(2) 早生系品種の選定と栽培期間(2005年)

18品種、5月2日、5月16日、6月1日播種の3作期で試験を行った。

(3) 中生品種の選定と栽培期間(2006年)

8品種、5月2日、6月2日、6月15日播種の3作期で試験を行った。

(4) 晩生品種の選定と栽培期間(2007年)

7品種、6月8日、6月25日、7月10日播種の3作期で試験を行った。

(5) 極早生品種のトンネルマルチ栽培による出荷期の延長(2008年)

2品種、トンネル被覆の有無、セル移植と直播をそれぞれ組み合わせ試験を行った。移植日・直播日は4月22日(セル移植の播種日は4月10日)、及び5月8日(セル移植の播種日は4月25日)とした。

3. 結果及び考察

(1) 中晩生品種の選定

青豆系では「酒の友3号」、ハーフ豆系では「雪音」、オリジナル秋豆系では「あきた香り五葉」を有望とした。

(2) 早生系品種の選定と栽培期間

青豆系では極早生で「グリーン75」、早生で「栄錦」、中早生で「サヤムスメ」、ハーフ豆系では早生で「あまおとめ」、中早生で「湯上がり娘」を有望とし、安定して栽培できる期間を明らかにした。

(3) 中生品種の選定と栽培期間

青豆系の「あきたさやか」は現地で出荷量が減少する8月下旬から9月上旬に収穫でき収量が安定しており有望とし、安定して栽培できる期間を明らかにした。

(4) 晩生品種の選定と栽培期間

青豆系では「秘伝」が収量、食味とも安定しており有望とした。オリジナル秋豆系では「秋試15号」が収量が高く、食味の良い黒豆品種として有望とし、安定して栽培できる期間を明らかにした。

(5) 極早生品種のトンネルマルチ栽培による出荷期の延長

収量的には問題があるものの4月10日播種の4月22日移植で、トンネル被覆栽培を行うと7月4日から収穫が可能であった。また、4月22日に直播し、トンネル被覆栽培を行うと7月13日から収穫でき収量的にも問題がないため、作期拡大のため現地での導入が期待できると考えられた。

4. まとめ

エダマメの早生から晩生において、有望品種を選定するとともに、収量・食味等が良く安定して栽培できる期間を明らかにした。そして、これらのデータを基に、本県エダマメの長期継続出荷に向けた作付けモデルを作成した(表1)。

